



公民館



早めの対応がその後を楽にする

教育も医療も、早く発見して早く対応することが大切と言われます。さらに、予防できれば事が起きないのでもっと楽になります。その代わり、何も起こっていないけれど日々の努力や事前の対応が必要になります。

例えば、虫歯に罹ってしまったら、なるべく早く治療した方が早く治ります。さらに言えば、定期的に予防歯科に通ったり歯のブラッシングをすることで予防でき、痛い思いをしなくても済みます。

勉強でも、日頃からしっかり勉強しておれば、テスト前になってから苦しい思いをしなくてもよくなります。高校の時、私がテスト前に徹夜状態でがんばっていると、普段から頑張っている友達が、「僕は普段からやっているから、テスト前はのんびりするよ」と言っていたのが忘れられません。私には無理でしたが。何事も、早めの対応や予防が楽になる秘訣のようです。

もしかして、働き方改革も「早期対応や予防」がキーワードかも知れません。



とくさんの畑日記

動物たちとの闘いは続く・・・

今年も苺の苗を植えました。たくさん実りました。しかし、赤く実っていた苺は全て何者かに食べられていました。(写真のとおり)

「しまった、昨日採っておけばよかった・・・。」

今年もまた、動物たちとの闘いが始まりました。今年の作戦は、苺の近くにガムテープの粘着面を上に向けて置いておくという作戦です。苺を食べようとする動物は、ガムテープが足の裏にくっつくことで嫌な気持ちになるだろうと考えました。次の日、苺は食べられなかったのが効果があったと思ったら、近所の人からハクビシンを捕まえました。ガムテープの効果ではなかったようです。それから数日間は食べられることがなかったので、やはり犯人はハクビシンだったようです。しかし、それから数日後、また食べ荒らされました。近所の人いわく、「ハクビシンは1匹とは限らんからな・・・。」



ハクビシン

それから1週間ほどして再度ハクビシンが罠にかかりました。やはり犯人はハクビシンでした。罠の餌はりんごだということなので、苺を食べても不思議はありません。動物たちとの闘いは、まだまだ続きそうです。



無惨にも何者かに食べられた苺

シリーズ 知っていましたが、青谷のこと？

「青谷さんぽフェス」はどうやって実現したのでしょうか

5月6日に第2回の「青谷さんぽフェス」があったのは、ご存知の方が多いでしょう。いつもは静かな青谷の町に、多くの人があふれていましたね。

ところで、この事業は誰が考えたかご存知ですか？中心となった梶田康広さんにお話を伺いました。

◎どうしてさんぽフェスをしようと思った？

空き家ツアーを企画した時、空き地がいっぱいあることと、自分が散歩してみても楽しかったことがきっかけです。

◎仲間にこんなのをやろうと言った時、どういう反応？

みんな「よしやろう」という雰囲気でした。いい仲間です。

◎土地や建物を借りたとき、持ち主の反応は？

みんな快く貸してくださいましたが、こんなに大きな会だとは思っていなかったようです。ちゃんと説明したつもりなんですがね・・・。

◎終わった後の反応は？

久々に青谷の町に活気が出たと好評でした。

◎困難なことは？

まず、その土地が誰のものなのかを探すのに苦労しました。それが分かったら、後はスムーズにできたので、困ることは特にありませんでした。

◎準備はどんなメンバーで？

スタッフが中心ですが、土地の持ち主やボランティアで草を刈ってくれる人などがあって、助かりました。

◎今後はどんなことを考えている？

秋に青谷かみじち史跡公園にたくさんの人を呼び込むフェスティバルを考えています。そのときもまた、たくさん来てください。

◎有難うございました。すごいエネルギーを感じました。



青谷の魅力発信している梶田さん

★青谷小・中合同資源回収 6月16日(日)

収益は、青小・中の部活等、教育充実のために使われます。

詳しくは、チラシをご覧ください。

おわりに

「青谷さんぽフェス」のときには、「賑やかでいい」「町外の人に見てもらえて嬉しい」という声が聞かれました。また、あれだけ多くの人があつたのに、ごみがほとんど落ちていませんでした。現在では、ごみは捨てる(持ち帰る)が常識になっているのでしょうか。因みに、公民館の前後の川にもペットボトルなどは捨てられた形跡はありませんでした。有難いことです。このような大きなイベントをきっかけに、青谷に関わる人が、まちづくりについて楽しみながら考えられたら、どんどんよい町になるのではないのでしょうか。